

令和3年度

東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum Annual Report 2021



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

3

アート・コミュニケーション事業

人と作品、人と人、人と場所とをつなぎ、アートを媒介とした新たなコミュニケーションを育む活動を展開。美術館に集まる多種多様な人々とのコミュニケーションを大切に、そこから創出される新しい価値観を社会に届けることで、アートを介したコミュニティを育んでいくことを目的としている。

- とびらプロジェクト
- Museum Start あいうえの
- Creative Ageing ずっとび
- 障害のある方のための特別鑑賞会
- とびラーによる建築ツアー
- 学校連携
- 展覧会関連プログラム
- 事業の発信・成果の発表



とびらプロジェクト

とびらプロジェクトとは、美術館を拠点にアートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトである。当館と東京藝術大学(以下、藝大)が連携し2012(平成24)年度より始動。2021(令和3)年度で10年目を迎えた。

広く一般から集まったアート・コミュニケータ(愛称:とびラー)は、都美の学芸員、藝大の教員や専門家と対話を重ねながら、美術館の文化資源を活かした活動を展開している。本年度は8・9期とびラーに新たに10期とびラーが加わり、オンラインとリアルの両方の場で活動した。

とびラーの活動はボランティアではあるが、美術館のサポーターではない。学びと実践をくり返し、能動的なプレイヤーとしてプロジェクトを推進している。とびラーの任期は3年間であり、その間にアートを介して誰もがフラットに参加できる対話の場をデザインし、様々な価値観を持つ多様な人々を結びつける活動を生み出している。

1期から7期までの任期満了したとびラーは合計256人となり、本年度も社会のさまざまな場所でアート・コミュニケータとしての活躍が見られた。

2020(令和2)年度同様、藝大側の代表教員として日比野克彦(東京藝術大学美術学部長)、とびらプロジェクト・アドバイザーとして西村佳哲(プランニング・ディレクター/リビングワールド代表)、森司(アーツカウンシル東京事業推進室 事業調整課長)が関わっている。

以下、実施プログラムの基本データは事業実績一覧(pp.62-65)を参照。

ウェブサイト <https://tobira-project.info>(ページビュー 204,851)

とびラー募集の流れと主な年間スケジュール

2020(令和2)年度

12月 10期とびラー募集広報開始

1月 10期とびラー応募受付開始

2月 「とびらプロジェクト」フォーラム

10期とびラー応募締切

3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)

→10期とびラー決定通知

2021(令和3)年度

4月 基礎講座(～6月):隔週土曜日 全6回

6月 実践講座(～2月):

鑑賞実践講座 全7回、アクセス実践講座 全7回、

建築実践講座 全8回

7月 「Museum Start あいうえの」および「Creative Age ずっとび」当年度プログラム開始(※)

12月 11期とびラー募集広報開始

1月 11期とびラー応募受付開始

2月 「とびらプロジェクト」フォーラム

11期とびラー応募締切

3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)

→11期とびラー決定通知

開扉会(かいびかい:8期とびラーの任期満了式)

年間を通じて、とびラーの自主的な学びあいの場(とびラボ)が588回開催された。

※「Museum Start あいうえの」については、2021(令和3)年度4月に2020(令和2)年度延期されたプログラムを実施

10期とびラーの応募倍率と本年度のとびラー人数

募集に対し361人から応募があり、書類審査、面接を経て、51人を10期とびラーに決定。約9倍の倍率であった。この51人と、昨年度から更新した8・9期とびラー87人をあわせた計138人で本年度のとびらプロジェクトが始動した。



10期とびラー募集チラシ

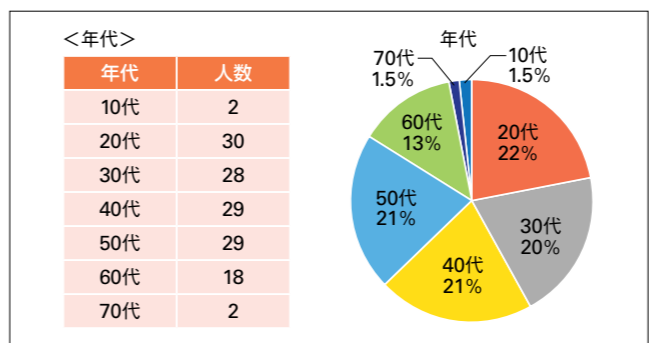
都美×藝大とびらプロジェクト運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当した。藝大担当者は伊藤達矢(美術学部特任准教授、とびらプロジェクト・マネージャ)、小牟田悠介(美術学部特任助教、とびらプロジェクト・サブマネージャ)、越川さくら(美術学部特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)、山崎日希(美術学部特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)。当館のプロジェクトルームを拠点に活動し

た。都美担当者は稲庭彩和子、熊谷香寿美。専門家委託として小野口優来(2021年4月～8月)、三浦和紗(2021年9月～2022年3月)。

とびラーの基本属性

8～10期とびラーの基本属性は次の図のとおりである。年齢や仕事、経験、活動できる曜日などが偏らないよう多角的視点から総合的に配慮した上で選考されている。



8～10期とびラーの基本属性 ※2021(令和3)年4月時点

基礎講座・実践講座をはじめとする学びと実践の場

とびラーは、当館のミッションや藝大からのメッセージをもとに、とびらプロジェクトの目指す方向性を共有し、1年目とびラー全員必修の「基礎講座」でとびラーとしての基本的なコミュニケーションのあり方を学ぶ。その後、より実践的な活動場面を想定した選択制の「実践講座」で活動への理解を深める。

コロナ禍が続く本年度は、4月に開講した基礎講座からウェブ会議システム(Zoom)を活用したオンラインとリアルの両方で学びを深めることを目指した。

・基礎講座(4～6月の隔週土曜日/全6回/各回約4時間)

アートを介してコミュニティを作るための基礎を学ぶ。対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは?美術館での鑑賞体験とは?といった問いをテーマに、とびラーの活動を支える基礎的な考え方をワークショップ形式で学ぶ。コミュニケーションの最も重要な要素として、高い発信力ではなく相手の話を状況や発言の文脈に応じてその本意を想像し「きく」力を身につけることを目的としている。

Zoomを使用して実施したオンラインの活動は発信側からの講義形式になりがちだが、ハンドサインやチャット、手書きのフリップの使用や、少人数で話し合う時間を設けるなど、オンラインでの活動でもつながりを意識し講座を

構成した。また、聴覚障害を持つアート・コミュニケータへのコミュニケーション支援として、UDトークも活用した。

第1回 オリエンテーション(全とびラー対象、オンライン・リアル)

講師/伊藤、稲庭

プロジェクト概要や情報共有ツールについて紹介し、これから活動していく上で必要となるとびラー同士の共通認識をコミュニケーションの中でつくる。

第2回 「きく力」を身につける(10期とびラー対象、リアル)

講師/西村

コミュニケーションの基本となる、話をしている相手の全体性に関心を向けて「きく」こと、とびらプロジェクトで大切な「きく力」について、オンラインでの講義と体験を通じて学ぶ。

第3回 ミュージアムとウェルビーイング(全とびラー対象、オンライン)

講師/日比野、森、伊藤、稲庭

これまでとびらプロジェクトで実践してきたアクセス・プログラム等を題材に、多様なウェルビーイングを人々との関わりで実現する社会包摂の拠点となるミュージアムのあり方について考える。

第4回 会議が変われば社会が変わる(10期とびラー対象、オンライン)

講師/青木将幸(青木将幸ファシリテーター事務所代表)

とびラーの自主的な活動において根幹をなす「ミーティング」の場を、参加する一人ひとりが主体的に関わる場とするためのオンラインでの具体的な手法を学ぶ。

第5回 作品を鑑賞するとは(10期とびラー対象、オンライン)

講師/稲庭

作品が存在することによって起こる体験にどのような意義があるのか、作品を鑑賞することの意味について理解を深める。

第6回 この指とまれ/そこにいる人が全て式/解散設定(10期とびラー対象、オンライン)

講師／西村

小さなチームのつくり方や、そこに集まった人たち全員の力を活かした活動のつくり方、とびラーが自主的に活動していくための手法を学ぶ。また、活動のはじめ方だけでなく、終わり方のデザインについても理解を深める。



基礎講座(第2回)Zoomで講師と会場をつなぎ、「きく」力について学ぶ

・実践講座(7月以降各講座ごとに適宜実施)

実践的な場面を想定して設けられた3種類の講座。各講座は外部の専門家や学芸員が担当。実践の現場で気付いた疑問なども振り返りながら、アート・コミュニケータとしての学びをより深める。

A 鑑賞実践講座(対話が生まれる場をつくるプロセスを学び、作品やモノを介して人をつなぐ場をデザインすることを目標とする)全7回 ※オンライン6回、リアル1回の実施

講師／三ツ木紀英(NPO法人芸術資源開発機構ARDA代表理事)、稲庭、越川

B アクセス実践講座(具体的な社会課題に関わる状況・活動を知ることにより、美術館に行くことが難しい人が、来館し、利用するために必要な支援を考え企画する力を身につける。障害の有無や社会的な状況に関わらず、人々が美術館にアクセスしやすい環境やプログラムについて考え、実践することを目標とする)全7回 ※オンライン5回、リアル2回の実施

講師／川島聡(岡山理科大学准教授)、松見幸太郎(NPO法人キッズドア事務局長)、千葉偉才也(一般社団法人リテラシーラボ代表理事)、西智弘(川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター腫瘍内科・緩和ケア内科医師、一般社団法人プラスケア代表理事)、伊藤、稲庭、小牟田、越川、藤岡勇人(東京都美術館学芸員)

C 建築実践講座(美術館建築への関心を軸に、ミュージアムというパブリックな建築と人々の関わりについて考え、講座での学びを通じ、建物の魅力や背景を理解し、自分の感覚を手掛かりに建築を「味わう力」を身につける)全8回(オンライン3回、リアル5回の実施)講師／倉方俊輔(建築史家、大阪市立大学大学院工学研究科准教授)、宇田川裕喜(株式会社バウム代表)、佐藤慎也(日本大学理工学部建築学科教授、八戸市美術館館長)、大澤苑美(八戸市美術館学芸員)、森純平(八戸市美術館設計者、たいけん美じゅつ場VIVAディレクター、東京藝術大学美術学部建築科助教)、伊藤、稲庭、山崎、河野佑美(東京都美術館学芸員)

上記講座に加えて、とびラー全員が集まる「とびらステーション」を年に1回開催し、とびらプロジェクトの全体像や今後の方向性を確認しあう機会としている。本年度は、東京都美術館と東京藝術大学を会場に実施、108名が参加し互いに交流する機会とした。

また、「福祉×アート」を考える藝大の履修証明プログラム Diversity on the Arts Project (略称:DOOR)とも連携し、聴講機会も開かれている。特別展・企画展・上野アーティストプロジェクト展については、展覧会担当学芸員による事前勉強会が設けられている。加えて、専門家とともに行う野外彫刻洗浄への参加も昨年に続き呼びかけた。



野外彫刻洗浄の様子(堀内正和《三本の直方体B》1978年)

オープン・レクチャー

オープン・レクチャーとは、とびラーに加えて一般の方々を対象に毎年行われている公開講座である。ゲスト講師を招き、とびらプロジェクトの活動を進める中で見出された問題意識や目指す社会の姿について知見を深めることを目的とし、アートを介したコミュニティの価値に関して広く

一般に発信する機会としている。

2021(令和3)年度は、タイトルを「建築と美術館とコミュニケーション—お金で買えない「ギフト」に気づく場所とは?」とし、Zoom ウェビナーを使用して行った。「ギフト」をテーマに美術館の役割の変遷と共に、とびらプロジェクトでの活動を紹介した。

八戸市美術館の館長で建築家の佐藤慎也と、八戸市美術館学芸員の大澤苑美、東京藝術大学美術学部建築科助教で茨城県取手市のたいけん美じゅつ場VIVAディレクターの森純平を登壇者に迎え、人々の関わりを作ることが意図されて設計された2つの文化施設の事例を通して、新たな公共建築について考える機会とした。



とびらプロジェクトオープン・レクチャーのWEBパナー

とびらプロジェクトフォーラム

とびらプロジェクトの活動とその意義を広く周知することを目的として、毎年とびらプロジェクトフォーラムを開催している。次年度のとびら募集のための説明会という趣旨も兼ねている。

本年度は、「コミュニティから芽生える回復力 予測不可能な世界を生きる、アート・コミュニケータの10年とこれから」をテーマに実施した。美術館を拠点に、多様な人々が作品や文化財を介して、フラットに関わり合う「ゼロからの対話」でつむぐコミュニティを目指して活動してきたとびらプロジェクトの10年を振り返り、創造的な対話の場を持つ意味や、これからのコミュニティのあり方について考える機会とした。

第1部は東京都美術館の講堂を会場に行い、YouTubeでの同時配信も行った。小牟田と熊谷がとびらプロジェクトの概要と10年間の歩みを紹介した後、「予測不可能な世界を生きる、アート・コミュニケータの10年とこれから」と題したトークセッションを行い、西村と稲庭が聞き手となって、とびラーと任期満了したアート・コミュニケータの5人が自分たちの活動や、その根幹となっている考え方、コミュニティの広がりについて語り合った。

続くパネルディスカッションでは「コミュニティから芽

生える回復力」をテーマに、とびらプロジェクトに設立から関わっているメンバー(日比野・西村・森・伊藤・稲庭)が登壇。きくこと・みることを通じてコミュニティを耕し育んできたとびらプロジェクトの10年を、「土中環境」をキーワードに振り返った。

第2部は「とびラボ オープンセッション」を講堂、アートスタディールーム、スタジオで開催。とびラーが写真や資料を見せながら普段の活動を紹介し、来場者からの質問にも答えた。



とびらプロジェクトフォーラム 第2部「とびラボ オープンセッション」

とびラボ

「とびラボ」はとびラー同士が自発的に開催する学び合いの場であり、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場所である。「とびラボ」は、ある1人のとびラーのアイデアに共感した他のとびラーが集まり3人以上のチームを作るところから始まる。

集まったメンバーのできることを組合せ、興味・関心・得意分野を大切に、お互いに「ききあい」、学芸員や大学教員とも相談しながらアイデアを実現させていく。予めデザインしておいた終わり方に従ってチームが解散した後は、また新しいメンバーが集まり新しい「とびラボ」が生み出される。

とびらプロジェクトでは、このステップを「この指とまれ式」、「そこにいる人がすべて式」、「解散!また結成」と呼んでいる。この活動を経て、オリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。同時に「とびラボ」は様々なバックグラウンドを持つとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が美術館に新しい価値を注ぎ込んでいる。本年度も、Zoomでのミーティングとリアルでのミーティングを併用して行った。年間開催数 588回 のべ参加者数 5,889人

「とびラボ」から生まれた活動

◎展覧会に関連した一般来館者対象の活動：
特別展

「イサム・ノグチ 発見の道」

- ・ともにつくる鑑賞の価値 語りませんか、あなたがみつけた「イサム・ノグチ 発見の道」
- ・イサム・ノグチを聴く～発見をわかちあおう～
- ・とびラジオ

「ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」

- ・おいでよ・ぶらっと・びじゅつかん、ゴッホの色をめぐるXの指令(オンライン)

◎当館の建築及び野外彫刻をテーマとする一般来館者対象の活動：

都美の野外彫刻を味わう、丹誠塾の中高生とモーニングツアー、おいでよ・ぶらっと・びじゅつかん、トビカン・ヤカン・カイクン・ツアー、トビカン・モーニング・ツアー、みんなでつくる Fun! Fan! とび巡り

◎とびラー対象の活動：

開扉冊子2022、とびラー新聞ラボ、対話カフェ、やさしい日本語を使った対話型鑑賞を考えよう！、語彙力爆アゲ委員会、みんなの卒展！2022、ベビーとゆったり美術館、みんなでつくる建築ツアー、車いすで楽しむ都美散歩、消しゴムハンコラボ、未来の話をしながら夢の展覧会をつくるラボ、ダイバーシティWSプログラムラボ、わたしのマイスカイホールを贈ろう！、失われゆく前川國男建築を考える～トビカンは100年残せるか？等

※詳細はとびらプロジェクトウェブサイトのとびラボページを参照のこと。 <https://tobira-project.info/tobilab>

情報共有の仕組

基礎講座や実践講座に関する情報伝達、とびラボやそこから生まれた活動の周知など、100人を超えるとびラーの情報共有を支える仕組みとして、プロジェクトを開始した2012(平成24)年度よりメーリングリストと用途に合わせたウェブ上の6つの掲示板を整備している。ただし、とびらプロジェクトの活動は直接会って話をするを前提としているため、これらの仕組みはあくまで補助ツールとして運用している。また、情報共有ツールであると同時に次世代とびラーへのアーカイブとしての機能も果たしている。

コロナ禍が続く本年度は、上記に加えて、オンライン会議システムであるZoomミーティングが情報共有を支える仕組みとして重要な役割を果たした。

これからゼミと開扉会

「これからゼミ」とは、とびらプロジェクトでの任期満了後の活動を考え、その準備を進めるためのゼミである。3年目のとびラーを1名以上含むチームを結成し活動を進める。内容によっては、スタッフとの情報共有の上、館外で活動を行うことも可能である。

本年度のミーティング開催数119回、のべ参加者数1401人。

「これからゼミ」から生まれた活動は下記の通りである。

- ・オンライン藝祭を楽しむ「藝祭にON-!」by Flatart
- ・大学生&小学生×アート・コミュニケーター@府中市美術館
- ・三鷹ネットワーク大学協働研究事業「アートで対話を楽しもう！」
- ・gift×gift～視覚障害の方と鑑賞の場「見えない人と見える人が一緒に楽しむアート鑑賞」
- ・とびラーオープンイノベーション
- ・中本達也・白井都記念芸術資源館におけるアート・コミュニケーターとしての活動
- ・10年後、なにしてる！？～とびラー1期の『その後』(1期にインタビュー)

上記のような活動を経て、2022(令和4)年3月には3年の任期を満了したとびラーのための「開扉会(かいびかい)」が開催された。本年度は、三密を避けるため講堂とオンライン配信を組み合わせて実施した。任期満了した8期とびラー34人。



これからゼミの共有会



開扉式



開扉式での集合写真



開扉冊子2022「開扉 とびラー8・9・10期「伝えあう 響きあう」」
表紙画：日比野克彦

アート・コミュニケーターの活躍と広がり

任期満了後のアート・コミュニケーターは、当館内外のさまざまな場で活躍の場を実現している。当館では、任期満了したアート・コミュニケーターが運営する任意団体アート・コミュニケーター東京に「障害のある方のための特別鑑賞会」の運営協力を依頼している。館外では、同じく任意団体アート・コミュニケーター東京が、東京都庭園美術館において障害のある方を対象とした「アート・コミュニケーターとめぐる特別鑑賞ツアー」や「ベビーといっしょにミュージアムツアー」を実施した。また、当館と同じく前川國男が設計した文化施設において任期満了者の団体が建築ツアーを実施している。神奈川県立音楽堂においては、任期満了者が立ち上げた団体(bridge)が2020年度から継続して定期的な建築ツアーを実施しており、2021年度からは、埼玉会館において任期満了者がボランティア・ガイド「前川國男を知ろう！彩の国探検隊」を務める建築ツアーが始まった。

一方で、「アート・コミュニケーター」というアイディアは全国的に広がり、札幌文化芸術交流センター SCARTS、岐阜県美術館、たいけん美じゅつ場VIVA(茨城県取手市)、長野県立美術館、山口県宇部市において「アート・コミュニケーター」の具体的な取組みが展開されており、大きな期待が寄せられている。

Museum Start あいうえの

「Museum Start あいうえの」(以下、「あいうえの」とは、上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子供たちのミュージアム・デビューを応援するラーニング・デザイン・プロジェクトである。小学校1年生～高校3年生まで及びその年齢の全ての子供たちを対象とし、複数の文化施設が持つ豊富な文化資源の観察・鑑賞を通じた統合的な学びを推進。大人と子供が共に学び合う主体性を重視したアクティブ・ラーニング・プログラムを実施することで、生涯を通じて継続的にミュージアムを活用することができる「ミュージアム・リテラシー」を育むことをねらいとしている。あわせて、参加した子供や保護者、教員、とびラー等で構成される文化財を介した人と人のつながり「ミュージアム・コミュニティ」の形成を目指している。

複数の文化施設の活用を促すツール「ミュージアム・スタート・バック」とウェブサイトを中心に、ミュージアム・大学・市民が協働して子供たちの学びに関わり、プロジェクトを推進させている。本年度の子供の参加者は1,969人。2013(平成25)年の事業開始から累計16,691人の子供がミュージアム・デビューを果たしている。実施プログラムは事業実績一覧(pp.62-65)

ウェブサイト <https://museum-start.jp>(ページビュー／163,062)

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館・アーツカウンシル東京、東京藝術大学

共催：上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館(五十音順)

とびらプロジェクトとの連動

「あいうえの」で重要な役割を果たすのが子供たちと一緒に活動する「きく力」のあるとびラー(p.47参照)である。自分に関心を持って耳を傾けてくれる人の存在が子供たちの自己肯定感を育むことにつながる。

とびラーたちはプログラムの中で子供たちの伴走役として活動している。親でも先生でもない多様な大人と出会い、豊富な文化資源を共に鑑賞し、大人と子供がフラットに学びあうことで、子供たちのミュージアム体験がより充実したものになることを目指している。

他方、とびラーにとっては、「あいうえの」でワークショップの場づくりに参画することが、とびらプロジェクトでの各講座の内容を具体的に理解し実践する学びの場となっている。

Museum Start あいうえの運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当した。藝大担当者は、伊藤達矢(美術学部特任准教授、「あいうえの」プロジェクト・マネージャ)、小牟田悠介(美術学部特任助教、「あいうえの」プロジェクト・サブマネージャ)、鈴木智香子(美術学部特任助手、「あいうえの」プログラム・オフィサー)、金盛郁子(美術学部特任助手、「あいうえの」プログラム・オフィサー)。当館のプロジェクトルームを拠点に活動した。都美担当者は、稲庭彩和子、河野佑美。専門家委託として石丸郁乃(「あいうえの」プログラム・オフィサー)、小野口優来(2021年4月～8月)、三浦和紗(2021年9月～2022年3月)。

「ミュージアム・スタート・バック」の特徴

「ミュージアム・スタート・バック」とは、子供たちがミュージアムを楽しく活用するためのスターター・キットである。「あいうえの」のプログラムに初めて参加した子供たち全員にプレゼントしている。

連携各館を紹介する「ガイドブック(ビビハドトカダブック)」とミュージアムでの体験の記録を書き込める「冒険ノート」の2冊がバインダーにまとめられている。バインダーには「あいうえの」の秘密の呪文(館種を表す言葉の頭文字をつないだ「ビビハドトカダブ」)がホログラムをあしらってデザインされている。

子供たちの意欲をより高めるため、連携各館にバックを持って出かけるとオリジナルバッジを集められる仕組みとなっている。保護者・教員には「あいうえの」を紹介した小冊子「ミュージアム・スタート・バック活用ガイドブック」を配布。



ミュージアム・スタート・バック

ウェブサイトの機能

「あいうえの」ウェブサイトでは、特徴的なコンテンツとして、連携9館の豊富な参加型プログラムや展覧会情報等を一望できる「ミュージアム・カレンダー機能」や、参加者による「冒険ノート」の「投稿フォーム機能」、施設のみどころやそこで働く人々のミュージアム体験に関するインタビュー記事等を掲載した「連携各館紹介ページ」を運用している。

またサイトのデザインに合わせて、単色ロゴマークを使用している。なお、冒険ノートはInstagramの「あいうえの」公式アカウントでも順次公開している。



ウェブサイトトップページ

入口としてのアクティブ・ラーニング・プログラム

「あいうえの」ではあらゆる子供たちが参加できるよう、3つの入口を用意している。広く公平に子供たちに参加してもらうための「学校プログラム」、ファミリーにミュージアムでの学びの機会を提供する「ファミリー&ティーンズ・プログラム」、そして、多様な文化的背景を持つ子供たちや社会的支援を必要とする子供たちを対象とする「ダイバーシティ・プログラム」の3つである。いずれも、大人と子供の学び合いを重視したアクティブ・ラーニングを行っている。

本年度は、オンラインとリアルを組み合わせたブレンディッド・ラーニングや野外彫刻を活用したプログラムなどを実施し、リアルでの実施に重点をおいた。実施したプログラムは以下のとおり。

(1)学校プログラム

美術館で作品と出会い対話することで、子供たちの見方・感じ方を広げるプログラム。学習指導要領に対応し、言語活動を通じて子供たちの「主体性」「生きる力」を育む。図工・美術に限らず総合学習や国語など授業のねらいにあわせて実施。都美の学芸員や藝大教員が学校教員の相談に応じ、美術館を活用した授業づくりをコーディネートしている。当日だけでなく事前授業から事後授業まで教員をサポート。事前授業に活用できる作品のアートカード等が入った「鑑賞ボックス」も貸し出している。

・スペシャル・マンデー

特別展・企画展の休室日(月曜日)にゆったりとした展示室で鑑賞授業を行うプログラム。とびラーが子供たちと作品鑑賞を共にし、サポートする。学校から美術館までの往復バスを無料で用意し、美術館を活用しやすい環境を整えている。

全9回開催／参加9校、参加者数477人(児童・生徒数)

対象／都内幼保・小・中・高等・特別支援学校(幼稚園保育園は年長クラスから受入、特別支援学級も受入)

・うえのウェルカム

野外彫刻や開室中の展示室で行う学校対象プログラム。授業のねらいや目的にあわせた幅広い活動を行う。SDGsなどの時事的なキーワードも取り入れて実施。

対象／小、中、高等、特別支援学校・学級(申込状況により、都外の学校も受入)

全8回開催／参加8校、参加者数473人(児童・生徒数)



うえのウェルカム(台東区立蔵前小学校)



スペシャル・マンデー(都立田園調布特別支援学校)「ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展」東京都美術館
撮影：中島佑輔

(2)ファミリー & ティーンズ・プログラム

ミュージアムの楽しさや上野公園の魅力体験できる、冒険と発見のプログラム。鑑賞・観察・造形を通して子供と大人がともに学びあうことを目指している。本年度は下記の3つのプログラムを実施した。

・SDGsで探究！名建築をみる

SDGsをキーワードに、日本のモダニズム建築を牽引した建築家・前川國男の設計による当館の建築を探検し、観察するプログラム。前川の設計思想におけるSDGsに通ずる視点に着目しながら建築を観察。観察にはとびラーが伴走し、子供たちの気づきを促す。帰宅後にはその体験を「冒険ノート」に記録し、ウェブサイトにて投稿。オンラインでの発信を通じて子供たちの学びを深める仕組みとした。

実施日：8月1日(日)、10月30日(土)

全4回実施／参加者数：137人(子供)

・うえの！アートリサーチャー オンライン&リアル

オンラインとリアルで2ステップで、アートを探究し、上野公園の文化施設を楽しむブレンディッド・ラーニングのプログラム。オンラインで作品をみながらグループで対話するステップ1と、実際(リアル)に文化施設で本物に出会うステップ2を組み合わせた。

ステップ1では作品画像を複数の参加者でみることで、実際のミュージアムで本物を見てみたいという気持ちを醸成することをねらいとした。オンラインの鑑賞では、とびラーがグループに入り子供たちの発見や気づきをきく役割を果たした。

ステップ2では、当館でミュージアム・スタート・パッ

クを受けとり、使い方を学んだ上で、自分の目で観察し思考するきっかけとなるツール(指令書)を受けとり、ミュージアムに出かける。戻ってきたら、指令書をきっかけに考えたことを「冒険ノート」にまとめる活動を行った。とびラーたちは子供たちに寄り添い発見や気づきを言語化するサポートをした。

また、既に「ミュージアム・スタート・バック」を持っている子供たちが、上野公園のミュージアムを再訪する機会として、ステップ2実施日の前後2週間を「ミッションWEEK」として簡易プログラムを実施。この期間は上記の「指令書」を当館で受け取ることができ、とびラーのサポートがなくても子供と保護者でミュージアム体験をより深められるような設計とした。

ステップ1

実施日：8月7日(土)、8日(日)、10月2日(土)、3日(日)

参加者数：296人(子供)

ステップ2

実施日：9月5日(日)、11月6日(土)、12月4日(土)、
2022年1月30日(日)、3月21日(月・祝)

*ミッションWEEKは8月～2022年1月に実施
全37回実施／参加者数：276人(子供)



ステップ1:オンライン鑑賞の様子(東勝吉《湯布院馬車六所様から》1999年)



ステップ2:冒険ノートづくりの様子

・みる旅 — 芸術と科学に出会い、過去と未来を旅する3日間

高校生とシニア世代(65歳以上)を対象とした異世代交流プログラム。プログラムでは、東京都美術館の特別展「イサム・ノグチ 発見の道」と、『映画 太陽の子』を鑑賞し「平和」「科学」「芸術」「生きる」をテーマに参加者ととびラーが対話を重ねた。(プログラムの概要はp.57にも記載)

実施日：7月18日(日)、23日(金・祝)、24日(土)、
25日(日)

参加者数：131人(高校生・シニア合計)



みる旅(本物の大理石に触れる高校生とシニア)

(3)ダイバーシティ・プログラム

多様な文化的背景を持つ人々が、文化や言語を越えて違いや共通点を知り、相互理解を深めるプログラム。様々な社会的状況にある子供たちを対象に、2016年度から実施している。児童養護施設、経済的困難を抱えた子供をサポートするNPO、外国にルーツを持つ子供をサポートするNPOなど、関連する団体と連携し、文化や言語の違いを超えて、子供や大人が出会い、対話することを目指している。

・やさしい日本語プログラム「SDGsでミュージアム！」

SDGsをキーワードに、東京都美術館の建築と野外彫刻を観察し、自分が愛着を持つことができた「誰かに伝えたい場所」を写真に撮り、その写真に合う言葉を見つける活動を行った。観察すること、イメージを言葉にすること、それをシェアすることをねらいとした。東京都つながり創生財団より紹介を受け、豊島子どもWAKUWAKUネットワーク、中野区国際交流協会の協力を得て、参加者を募った。

実施日：12月19日(日)

1回開催／参加者数：子供22人、引率者6人、
とびラー12人



やさしい日本語プログラム鑑賞の様子(五十嵐晴夫《メビウスの立方体》1978年)



やさしい日本語プログラムで写真に合う言葉を選んでいる様子

Creative Ageing ずっとび

あいうえのコミュニティ

「あいうえの」では、「あいうえの」参加者のミュージアムを活用した継続的な学びを支援し、「ミュージアム・リテラシー」を育む、ミュージアムを拠点にしたつながり「あいうえのコミュニティ」を支える仕組みを用意している。参加者全員が「あいうえのメンバーシップ」に登録することができ、メンバーには専用ニュースレター(あいうえの通信)を発行。ミュージアムや文化財を介したコミュニティの形成へのステップを継続的に創出している。本年度は、ニュースレターを3回発行した。

また、「あいうえのコミュニティ」においては、とびラーは重要なパートナーであり、とびラーの実践的な学びの場を創出することで、とびラーにコミュニティの一員として主体的に関わってもらおうことを目指している。この目的を実現するため、全てのプログラムの前後には、事前の準備会と事後の振り返り会を実施している。

本年度は事前の準備会を29回実施、また、全てのプログラムの後には振り返りを実施した。

実施回数：29回

参加者：とびラー 456人



とびラーとの準備会(学校プログラム)



とびラーとの準備会(ダイバーシティ・プログラム)

アンバサダー・プログラム

「アンバサダー・プログラム」とは、「あいうえのコミュニティ」を広げる取組みの1つであり、とびラー自らが自身の属するコミュニティから参加者を募って、「あいうえの」を紹介するものである。

自身が属するコミュニティの子供やその保護者を対象に、「あいうえの」の趣旨やコンセプトを自らの言葉で紹介した上で、上野地域のミュージアムを体験するプログラムを企画・立案することで、とびラーの「あいうえの」に対するより深い理解を醸成することを目指している。

実施回数：8回

参加者：子供22人、保護者・引率者21人、とびラー15人



アンバサダー・プログラムの様子(井上武吉(my sky hole 85-2 光と影)1985年)

Museum Start あいうえの 2022ミーティング

2022年度10年目を迎える節目の年となることに鑑み、共催する各文化施設の担当者が集い、子供たちが作成した各館での「冒険ノート」の記録を共有するといった活動を通して、改めて事業の目的と意義を確認する機会とした。

実施日：2022年3月2日(水)

参加者：11人(上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、東京国立博物館)

「Creative Ageing ずっとび」は超高齢社会に対応して、2021年度よりシニア世代を対象に始めた新しい事業である。「Creative Ageing(クリエイティブ・エイジング)」は海外のシニア向けの文化事業でよく用いられるスローガンで、「創造的に年を重ねる」という意味が込められている。また、歳を重ねても「ずっと」通いたくなる美術館を目指し、当館の愛称である「とび」と重ねて「ずっとび」という言葉が生まれた。この二つの言葉を組み合わせた「Creative Ageing ずっとび」(以下ずっとび)は、人や作品との出会いを通して、シニアの方がより主体的で創造的に楽しめる参加型のプログラムを実施している。

アート・コミュニケーション事業が取り組む、美術館の文化資源を介した多様な人々の社会参画とコミュニケーションの場づくりは、人々の健康やウェルビーイングにも寄与する役割も担ってきた。ずっとびでは、この役割をシニアの方に向けてより意識的に展開していくことで、当館が高齢者の健康を作る場となり、さらには高齢化に伴う社会的孤立や孤独などのさまざまな社会問題にも向き合うことを念頭に入れて活動を行っている。医療や福祉分野とも連携を図り、薬の「処方箋」ではなく社会的な繋がりを生む「社会的処方」を、当館の特性を生かす形で実装していくことを長期的な目標に掲げている。

事業の初年度となる2021年度は、美術館で社会的処方を既に実践している諸外国の事例を調べ、2つのプログラムを実施し、本事業を発信していくためのロゴやウェブサイトの制作を行った。また地域の医療福祉の従事者とのネットワークづくりも推進した。

本事業の担当者は稲庭彩和子、藤岡勇人。

博物館処方箋実践ガイドブック

アジアのミュージアムにおける社会的処方(※高齢者に対して薬の処方箋の代わりに美術館・博物館等の地域資源を介して社会参加を促す処方箋を出し課題に対応する試み)の実践に関する事例調査の一環として、国立台湾博物館が刊行した『博物館処方箋実務手冊(博物館処方箋実践ガイドブック)』(2021年12月刊行)を日本語に翻訳した。

本冊子は、国立台湾博物館が台北市立連合病院と連携して行っている、認知症のある高齢者とその介護者に向けた作品鑑賞や参加型プログラムについて、活動内容とその背景をまとめたものである。



博物館処方箋実践ガイドブックの表紙

異世代交流プログラム「みる旅」

「Museum Start あいうえの」との共同企画により、2021年7月23日～25日に東京都美術館の講堂と展示室を会場に、異世代交流プログラム「みる旅—芸術と科学に出会い、過去と未来へ旅する3日間」(以下、「みる旅」)を実施した。約30名ずつの高校生と65歳以上のシニアが20名のとびラーと一緒に、当館で開催していた特別展「イサム・ノグチ 発見の道」の鑑賞と、『映画 太陽の子』の試写会を通して、世代を超えて意見を交わし、交流する機会を作った。(プログラムの概要はp.55にも記載)

実施日：7月18日(日)、23日(金・祝)、24日(土)、25日(日)

参加者数(4日間のべ)：131人(高校生)、106人(65歳以上の方)



みる旅(映画を鑑賞後に意見を交わす異世代の参加者)

認知症の方とご家族を対象にしたプログラム

東京都美術館では初の試みとなる、認知症当事者とその家族を対象にしたプログラムを行った。「アート・コミュ

障害のある方のための特別鑑賞会

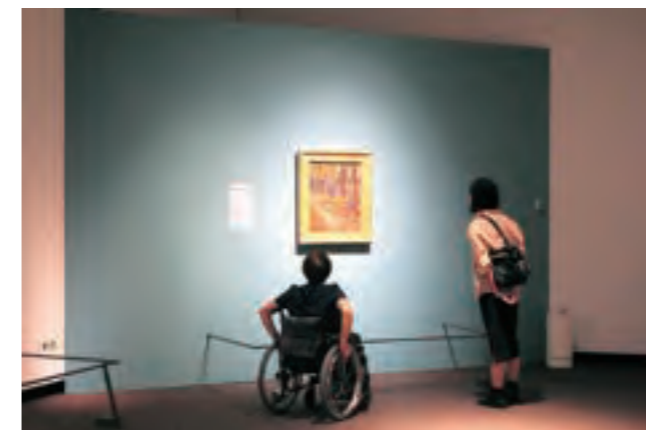
障害のある方がより安心してゆっくり鑑賞できるように、特別展の休室日に事前申込制で「障害のある方のための特別鑑賞会」を開催している。

本年度は「イサム・ノグチ 発見の道」、「ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」、「ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展」にて各1回ずつ実施、合計1,873人の参加者があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示室での混雑を避ける目的で、受付を前年度と同じように1時間ごとの時間指定制で行った。とびらプロジェクトと連動し当日の運営には総計136人のとびラーが参加した。任期満了したアート・コミュニケーターから構成される任意団体「アート・コミュニケーター東京」にも運営協力を依頼し、事前準備を経て総計165人の「アート・コミュニケーター東京」会員が参加した。

本年度は、参加者のサポートを行うアート・コミュニケーターについて紹介するスライドを会場入り口に設置し、アート・コミュニケーション事業の理解を促す一助とした。

[運営協力：任意団体アート・コミュニケーター東京]

6月28日(月)「イサム・ノグチ 発見の道」
 10月11日(月)「ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」
 2022年3月14日(月)「ドレスデン国立古典絵画館所蔵
 フェルメールと17世紀オランダ絵画展」
 ※各日とも開催時間は10:00～16:00、入室時間は1時間ごとの時間制



障害のある方のための特別鑑賞会「ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」東京都美術館

とびラーによる建築ツアー

「とびラーによる建築ツアー」は、建築家・前川國男の設計による当館の建物の魅力を味わうプログラムである。建築家が込めた想い、歴史、建物の色・デザインといった建築を楽しむポイントを切り口に、当館の建築空間をとびラーと対話しながら散策する。ガイドを務めるとびラーそれぞれのオリジナリティが発揮された独自のプログラムを展開している。奇数月の第3土曜日14時から開催。

コロナ禍が続く本年度も、1回の参加者定員を15人までに抑え、参加方法も事前予約制とした。また、実施当日はソーシャルディスタンスを保つため、2～3人の少人数のグループにガイドを務めるとびラーが1人付き、ワイヤレス無線機を使いながらツアーを実施した。

実施日：7月17日(土)、9月18日(土)、11月20日(土)、
 2022年1月8日(土)、2022年3月19日(土)
 全5回開催、参加者計79人。
 ※5月の開催については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

上記の定例のツアーに加え、ライトアップされた当館を散策する「トピカン・ヤカン・カイカン・ツアー」を全5回と、平日の朝に楽しめる30分間のコンパクト版建築ツアー「トピカン・モーニング・ツアー」を全4回行った。

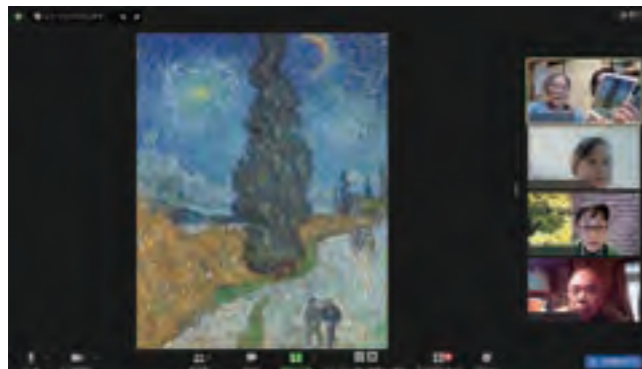


とびラーによる建築ツアーの様子

ニケータと一緒に楽しむ おうちでゴッホ展」(以下、「おうちでゴッホ展」)と題し、ウェブ会議システム(Zoom)を利用して、参加者の自宅と、美術館と、とびラーの自宅を繋ぎ、画面共有で「ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」の出品作品をみながら対話を行うプログラムである。

まず初めに担当学芸員から15分程度の導入を行った後で、参加者を家族ごとのグループに分けて、とびラー2～3人とグループになり、Zoomのブレイクアウトルーム機能で個別の部屋に分かれて、35分程度の作品鑑賞と対話を行った。

実施日：11月23日(火・祝)
 参加者数：20人



おうちでゴッホ展(フィンセント・ファン・ゴッホ《夜のプロヴァンスの田舎道》1890年)



みる旅チラシ

おうちでゴッホ展チラシ

台東区内の介護・福祉・医療従事者との連携

台東区社会福祉協議会、台東区内7か所の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、高齢者在宅サービスセンター、通所介護施設、台東区介護予防・地域支援課等、台東区内の介護・福祉事業の担当者が東京都美術館に集ま

り、「アートを介した高齢者支援を考える」をテーマに、地域つながり会議を行った。ずっとびの活動紹介を行った後で、高齢者に向けた文化プログラムを推進していくための意見交換を行った。また、永寿総合病院認知症疾患医療センターの医師や看護師とも研究会を行い、認知症の方を対象にしたプログラムの構想や、地域における医療と美術館の連携の可能性について協議を行った。こうした活動の背景として、ずっとびは、東京藝術大学が2021年度応募し採択された科学技術振興機構の産学連携プログラム「共創の場形成支援プログラム」(「共生社会」をつくるアート・コミュニケーション共創拠点事業)に参画、事業研究開発の連携協力を行っている。

東京藝術大学を始め、台東区社会福祉協議会等の共同参画している諸機関と連携し、社会的処方の中でも文化芸術に特化しアートを介したコミュニケーションと社会参加を促す「文化的処方」の実装に向けて、台東区での実践のモデル事業化にも取り組んでいる。

- ・地域つながり会議
 実施日：12月1日(水)
 参加者数：13人
- ・永寿総合病院との研究会
 実施日：2022年3月25日(金)
 参加者数：3人

ウェブサイトの開設

ずっとびのプログラムを幅広く周知する目的で、視認性が高く、シニアの方にもやさしいウェブサイトを新設した。プログラム募集のお知らせや、活動ブログ、記録動画、高齢者向け文化事業に関する調査研究の報告を掲載している。



ずっとびウェブサイト

学校連携

公立美術館の大きな役割のひとつに学校連携がある。学習指導要領にも学校と美術館との連携が明記されており、今後もさらなる連携が求められている。当館では、2013(平成25)年度から「Museum Start あいうえの」(詳細はp.52-56)が始まり、小・中・高校生向けのプログラムに特化した形で拡充されている。ここでは、年間を通じた学校対応や教員のための研修会の開催や受け入れ、都内教育機関を対象とした観覧料免除申請、インターンシップの受け入れ等について触れる。

2021(令和3)年度に実施したプログラムは以下の通りである。(事業実績一覧はpp.62-65参照)

年間を通じた学校対応と観覧料免除申請 (都内教育機関対象)

年間を通じ、教員からの来館相談に応じている。また、学校教育活動として特別展・企画展・上野アーティストプロジェクトを観覧する場合には、事前申請により都内教育機関の引率教員の観覧料を免除。コロナ禍においても、様々な環境にある児童・生徒の美術館での学びの機会の担保に寄与することを目指し、「イサム・ノグチ 発見の道」、「ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」、上野アーティストプロジェクト2021「Everyday Life わたしは生まれなおしている」及び「ドレスデン国立古典絵画館所蔵フェルメールと17世紀オランダ絵画展」にて実施した。(※東京都内の小・中・高校生、並びにこれらに準ずる方と引率の教員に限る)

参加者数は児童・生徒1,774人、引率教員179人。

教員向け研修

学校の教員(教科不問)を対象に、美術館をよく知り、有効に活用してもらうための研修プログラムとして「ティーチャーズ・デイ」を開催している。アート・コミュニケーション事業の基本的な考え方や「Museum Start あいうえの」の取り組み、そして具体的な学校連携プログラムの事例紹介等を行っている。

本年度はオンラインで7人の教員に対して実施した。6月19日(土)15:45～17:15

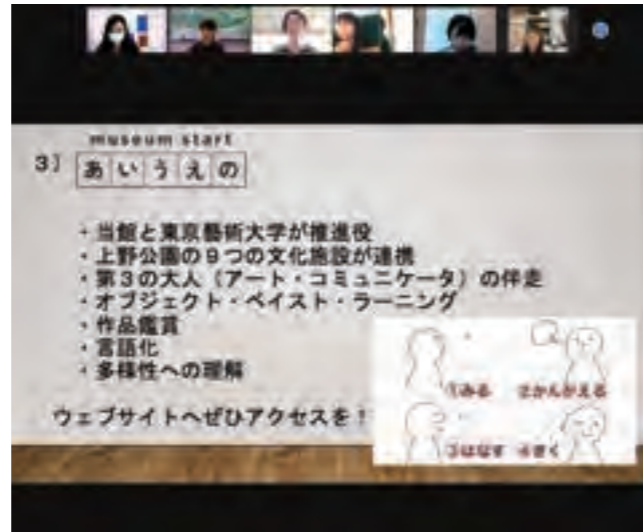
また、研修協力として、府中市立小中学校教育研究会図工美術部、台東区図工研究会部の研修の受け入れ、東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Iの受け入れを行った。

専門的人材の育成

美術館を支える専門的な人材育成を行っている。将来の文化芸術活動を支える人材の育成に寄与するため、主に文化施設の事業や運営に関連する分野を専攻する大学院修士課程に在籍する学生を対象に、最長で1年間、若干名をインターン生として受け入れ、現場を通して学ぶ機会を提供している。本年度は2人を受け入れ、オンライン及びリアルでの実践的な学びを深めてもらった。

また、依頼のあった大学の学芸員課程の授業等を受け入れ、アート・コミュニケーション事業の理念や活動をオンラインやリアルで伝える機会とした。対応校3校、参加学生149人。

加えて、昨年度に引き続き、博物館の学芸担当者等を対象とする文化庁主催の「令和3年度ミュージアム・エデュケーション研修～多様な学び手とのかかわりを考える～」への協力も行った。なお、コロナ禍の本年度は、オンラインで研修が行われた。



ティーチャーズ・デイ(オンラインでの画面)

展覧会関連プログラム／事業の発信・成果の発表

展覧会関連プログラム

当館で開催される特別展、企画展、連携展、コレクション展をより深く理解し、より豊かに楽しんでもらえるよう、開催期間中に様々なプログラムを行っている。2021(令和3)年度に実施したプログラムは以下の通り。(事業実績一覧はpp.62-65参照)

1 特別展ジュニアガイド

展覧会のテーマや内容をわかりやすく伝える特別展ジュニアガイドを制作した。本年度は「イサム・ノグチ 発見の道」で6万部作成。また、「ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」では、初めて動画でジュニアガイドを制作した。



「イサム・ノグチ発見の道」ジュニアガイド
編集・テキスト：稲庭彩和子、鮫島圭代
絵：白尾可奈子 デザイン：栗谷川舞



「ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」ジュニアガイド動画6分33秒

2 とびラボ発展展覧会関連プログラム

とびラーの発案により、様々なプログラムが開催された。詳細はp.50を参照のこと。



とびラボ発展展覧会関連プログラム実施の様子

3 企画展・財団内連携事業関連プログラム

「Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる」では、関連プログラムとして、からだ全体で作品をあじわうダンス・プログラム「ダンス・ウェル」をオンラインで2回実施した(詳細はp.23)。また、財団内連携事業(詳細はp.35参照)である「TURN フェス2021」の連携プログラムとして、任期満了したアート・コミュニケーターと協働した鑑賞プログラム「探検TURN！」を全3回実施した。

事業の発信・成果の発表

上野公園にある9つの文化施設を舞台にした「Museum Start あいうえの」の活動アーカイブを基に、2022(令和4)年3月に株式会社左右社より『こどもと大人のためのミュージアム思考』が出版された。これまでに参加した約3万人の子供たちの体験からミュージアムでモノをみて思考することを「ミュージアム思考」と捉え、理論編と実践編の両方からその体験を紐解く内容にまとめた。



『こどもと大人のためのミュージアム思考』

アート・コミュニケーション事業 2021(令和3)年度 実績

2021年度アート・コミュニケーション事業のプログラム参加のべ総人数：21,300人

とびらプロジェクト(pp.46-51) プログラム参加のべ数 12,014人 / アート・コミュニケータ登録者数139人

| プログラム名 | 開催期間・開催日 | 回数 | 参加者数 | | 参加者計 | | |
|--|---|--|------|--------|------|-------|--------|
| | | | とびら | 一般参加者等 | | | |
| 基礎講座 | 4月10日、24日、5月8日、22日、6月5日、19日 いずれも土曜日 | 6回 | 431 | 0 | 23 | 454 | |
| 鑑賞実践講座 | 7月12日(月)、26日(月)、8月2日(月)、14日(土)、15日(日)、30日(月)、10月4日(月)、11月15日(月)、2022年2月14日(月) | 7回 | 544 | 0 | 56 | 600 | |
| 鑑賞実践講座コーチング実践 | *任意参加 11月29日(月)、12月13日(月) | 2回 | 45 | 0 | 2 | 47 | |
| アクセス実践講座 | 7月4日、22日、9月12日、10月24日、11月7日、12月5日、2022年1月9日 いずれも日曜日 | 7回 | 410 | 0 | 44 | 454 | |
| 建築実践講座 | 7月3日(土)、8月28日(土)、9月25日(土)、10月16日(土)、11月7日(日)、13日(土)、12月11日(土)、2022年2月5日(土) | 8回 | 274 | 0 | 0 | 274 | |
| 特別鑑賞会に関する準備講座 | 5月8日(土) | 1回 | 64 | 0 | 0 | 64 | |
| 11期とびら1次審査応募者 | 2022年1月18日(月)～2月16日(火) | | 0 | 0 | 420 | 420 | |
| 11期とびら2次面接 | 2022年3月4日(金)～6日(日) | 3日間 | 0 | 0 | 127 | 127 | |
| とびらステーション | 12月18日(土) | 1回 | 89 | 0 | 0 | 89 | |
| 開扉式 | 2022年3月26日(土) | 1回 | 101 | 0 | 4 | 105 | |
| とびらプロジェクト・オープンレクチャー | 「建築と美術館とコミュニケーションーお金で買えない「ギフト」に気づく場所とは？」 | 1回 | 31 | 0 | 241 | 272 | |
| とびらプロジェクト・フォーラム | 第1部「コミュニティから芽生える回復力」 第2部「とびらポ オープンセッション」 | 2021年1月22日(土) | 1回 | 58 | 0 | 346 | 404 |
| 講座連携プログラム | Zoom接続テスト | 4月18日(日)、20日(火) | 2回 | 33 | 0 | 0 | 33 |
| | とびらIT相談室 | 6月5日(土) | 1回 | 19 | 0 | 0 | 19 |
| | とびらポの芽 | 4月17日(土)、5月1日(土)、15日(土)、29日(土)、6月27日(日)、9月19日(日)、9月25日(土)、10月30日(土) | 8回 | 68 | 0 | 0 | 68 |
| | これからゼミ説明会 | 7月11日(日) | 1回 | 25 | 0 | 0 | 25 |
| | これからゼミ共有会 | 2022年3月19日(土) | 1回 | 13 | 0 | 0 | 13 |
| | 鑑賞研修 | 9月26日(月) | 1回 | 39 | 0 | 0 | 39 |
| | 鑑賞実践講座画面共有練習会 | 8月1日(日) | 1回 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| | 鑑賞実践講座補講 | 9月16日(木) | 1回 | 1 | 0 | 7 | 8 |
| | 基礎講座ファシリテータ事前練習会 | 5月30日(日)、6月4日(金) | 3回 | 26 | 0 | 0 | 26 |
| 都美連携プログラム | 特別展事前勉強会(ゴッホ展) | 8月21日(土) | 1回 | 72 | 41 | 0 | 113 |
| | 特別展事前勉強会(フェルメール展) | 2022年2月20日(日) | 1回 | 36 | 39 | 0 | 75 |
| | 野外彫刻洗浄 | 9月21日(月) | 1回 | 17 | 0 | 0 | 17 |
| | 「障害のある方のための特別鑑賞会」準備会 | 6月12日(日)、10月9日(土) | 2回 | 94 | 90 | 0 | 184 |
| | 「障害のある方のための特別鑑賞会」会場下見会 | 6月12日(土)、13日(日)、16日(水)、19日(土)、24日(木)、26日(土)、9月28日(火)、30日(木)、10月3日(日) | 9回 | 0 | 93 | 0 | 93 |
| | 「とびらによる建築ツアー」事前準備会 | 7月3日(土)、11月13日(土) | 2回 | 19 | 0 | 0 | 19 |
| | 「とびらによる建築ツアー」自主練習会 | 9月11日(土) | 1回 | 9 | 0 | 0 | 9 |
| | 「とびらによる建築ツアー」トライアル | 8月24日(火)、9月5日(日) | 3回 | 9 | 0 | 0 | 9 |
| | 探検TURN! 準備会 | 8月9日(月)、8月17日(火) | 2回 | 20 | 0 | 0 | 20 |
| | TURNフェス2021プログラムサポーター | 8月17日(火)～19日(木) | 3日間 | 11 | 8 | 0 | 19 |
| | 日本彫刻会盲学校教室見学 | 4月23日(金) | 1回 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 藝大連携プログラム(講義など) | 藝大生インタビュー | 11月～12月 | 10回 | 33 | 0 | 0 | 33 |
| | 藝大生インタビュー打合せ | 12月14日(火)、19日(日)、22日(水) | 3回 | 10 | 0 | 0 | 10 |
| とびらポ | とびらポ ミーティング | 4月～2022年3月 | 588回 | 5,887 | 1 | 1 | 5,889 |
| とびらポ発プログラム(「イサム・ノグチ 発見の道」) | ともにつくる鑑賞の価値 語りませんか、あなたがみつけた「イサム・ノグチ 発見の道」 | 7月31日(土) | 1回 | 11 | 0 | 10 | 21 |
| | イサム・ノグチを聴く～発見をわかちあおう～ | 8月24日(火) | 1回 | 12 | 0 | 15 | 27 |
| | おいでよ・ぶらっと・びじゅつかん | 11月28日(日) | 1回 | 16 | 0 | 9 | 25 |
| とびらポ発プログラム(「ゴッホ展—響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」) | ゴッホの色をめぐるXの指令(オンライン) | 11月28日(日) | 1回 | 19 | 0 | 16 | 35 |
| とびらポ発プログラム(「TURNフェス2021」) | 探検TURN! | 8月17日(火)～19日(木) | 3日間 | 21 | 0 | 30 | 51 |
| とびらポ発プログラム(当館の建築及び野外彫刻をテーマとする一般来館者対象の活動) | 静寂の美術館を楽しむ | 4月3日(土) | 1回 | 18 | 5 | 8 | 31 |
| | 都美の野外彫刻を味わう | 6月30日(木)、8月20日(金)、11月10日(水) | 1回 | 31 | 0 | 25 | 56 |
| | おいでよ・ぶらっと・びじゅつかん | 8月11日(水) | 1回 | 8 | 0 | 8 | 16 |
| | 丹誠熟の中高生と都美を味わう | 10月24日(日) | 1回 | 9 | 0 | 15 | 24 |
| | ベビーとゆったり美術館 検証会 | 12月15日(水) | 1回 | 9 | 0 | 5 | 14 |
| | gift×gift～視覚障害の方と鑑賞の場・「見えない人と見える人が一緒に楽しむアート鑑賞」 | 2022年3月14日(月) | 1回 | 15 | 0 | 6 | 21 |
| | みんなで作る Fun! Fan! とび巡り | 2022年3月25日(金) | 1回 | 14 | 0 | 18 | 32 |
| これからゼミ | これからゼミ ミーティング | 5月～2022年3月 | 117回 | 1,279 | 30 | 90 | 1,399 |
| 全国のアート・コミュニケーションリーグ連携 | オンライン情報交換会 | 4月13日(火)、9月7日(火) | 2回 | 0 | 0 | 34 | 34 |
| 視察対応等のアート・コミュニケーション事業連携 | のべ10団体 | 5月～2022年3月 | 15回 | 0 | 0 | 27 | 27 |
| 開扉とびらとの連携 | 障害のある方のための特別鑑賞会 | 6月28日(月)、10月11日(月)、2022年3月14日(月) | 3回 | 0 | 165 | 0 | 165 |
| 合計 | | | | 9,955 | 472 | 1,587 | 12,014 |

*鑑賞実践講座、アクセス実践講座の一般参加者は、藝大の履修証明制度「Diversity on the Arts Project」受講生

Museum Start あいうえの(pp.52-56) プログラム参加のべ人数 3,890人

| プログラム名 | 連携団体・学校 | 開催日 | 回数 | 参加者数 | | | 参加者計 | |
|--------------------------------|--|---|--|-------|-------|----------|-------|-----|
| | | | | とびら※ | 生徒・児童 | 保護者・引率者等 | | |
| 学校プログラム スペシャル・マンデー 9校 | 【Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる】 | 渋谷区立長谷戸小学校 | 9月13日(月)(9月8日、11日に事前授業を実施) | 1回 | 6 | 60 | 7 | 73 |
| | | 江東区立第三大島小学校 | 9月27日(月) | 1回 | 0 | 96 | 4 | 100 |
| | | 江東区立八名川小学校 | 10月6日(水) | 1回 | 0 | 55 | 5 | 60 |
| | 【ゴッホ展—響きあう魂 ヘレーネとフィンセント】 | 国分寺市立第九小学校 | 10月25日(月) | 1回 | 24 | 64 | 6 | 94 |
| | | 台東区立平成小学校 | 10月25日(月) | 1回 | 12 | 25 | 3 | 40 |
| | | 台東区立東泉小学校 | 10月25日(月) | 1回 | 20 | 52 | 4 | 76 |
| | 【ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展】 | 都立田園調布特別支援学校 | 2022年2月28日(月) | 1回 | 20 | 32 | 16 | 68 |
| | | 台東区立大正小学校 | 2022年2月28日(月) | 1回 | 34 | 75 | 5 | 114 |
| | | 筑波大学附属大塚特別支援学校 | 2022年3月8日(火) | 1回 | 0 | 18 | 9 | 27 |
| | | 都立本所高等学校 | 7月30日(金) | 1回 | 7 | 9 | 1 | 17 |
| 私立東洋女子高等学校 | | 8月27日(金)、9月29日(水) | 2回 | 28 | 126 | 12 | 166 | |
| 学校プログラム うえのウェルカム 8校 | 私立和光高校 | 10月12日(火) | 1回 | 8 | 13 | 1 | 22 | |
| | 台東区立根岸小学校 | 10月14日(木) | 1回 | 14 | 94 | 5 | 113 | |
| | 台東区立富士小学校 | 10月22日(金) | 1回 | 22 | 54 | 7 | 83 | |
| | 台東区立忍岡小学校 | 11月16日(火) | 1回 | 14 | 48 | 5 | 67 | |
| | 台東区立蔵前小学校 | 11月30日(火) | 1回 | 23 | 94 | 5 | 122 | |
| | 台東区立東浅草小学校 | 2022年1月21日(金)、3月7日(月) | 2回 | 0 | 51 | 3 | 54 | |
| | ファミリー&ティーンズ・プログラム | SDGsで探究! 名建築をみる | 8月1日(日)、10月30日(日) | 4回 | 75 | 137 | 143 | 355 |
| | | うえの! アートリサーチャー ステップ1 | 8月7日(土)、8日(日)、10月2日(土)、3日(日) | 8回 | 126 | 296 | 254 | 676 |
| | | うえの! アートリサーチャー ステップ2 | 9月5日(日)、11月6日(土)、12月4日(土)、2022年1月30日(日)、3月21日(月・祝) | 20回 | 45 | 196 | 213 | 454 |
| | | うえの! アートリサーチャー ミッション WEEK | 8月～2022年1月 | 37回 | 0 | 80 | 102 | 182 |
| | みる旅—芸術と科学に出会い、過去と未来を旅する3日間 | 7月18日(日)、23日(金)～25日(日) *生徒・児童の参加者数に65歳以上の参加者数も含める | 4日 | 80 | 239 | 4 | 323 | |
| ダイバシティ・プログラム | 美術館でやさしい日本語「SDGsでミュージアム!」 | 12月19日(日) | 1回 | 12 | 22 | 6 | 40 | |
| アンバサダー・プログラム | | 4月4日(日)、8月27日(金)、29日(日)、11月3日(水)、8日(月)、2022年3月19日(土)、20日(日) | 8回 | 15 | 22 | 21 | 58 | |
| 学び合いカフェ | 各プログラムのとびらとの準備日 | 4月～2022年3月 | 29回 | 456 | 0 | 0 | 456 | |
| Museum Start あいうえの2022 meeting | | 2022年3月2日(水) | 1回 | 0 | 0 | 11 | 11 | |
| 視察 | のべ15団体 | | | 0 | 0 | 39 | 39 | |
| 合計 | | | | 1,041 | 1,958 | 891 | 3,890 | |

※アンバサダー・プログラムのとびら人数には2人、学び合いカフェのとびら人数には2人の開扉とびらを含む

Creative Ageing ずっとび(pp.57-58) プログラム参加のべ人数 568人

| プログラム名 | 開催日 | 回数 | 参加者数 | | 参加者計 | |
|----------------------|-----------------------------|---|------|--------|------|-----|
| | | | とびラー | 一般参加者等 | | |
| 異世代交流プログラム | みる旅—芸術と科学に出会い、過去と未来を旅する3日間 | 7月18日(日)、23日(金)～25日(日) | 4回 | 80 | 243 | 323 |
| 認知症の方とご家族を対象にしたプログラム | アート・コミュニケータと一緒に楽しむ おうちでゴッホ展 | 11月23日(火・祝) | 1回 | 29 | 20 | 49 |
| クリエイティブ・エイジング事業説明会 | | 6月12日(土) | 1回 | 0 | 58 | 58 |
| 地域連携 | 地域つながり会議 | 12月1日(水) | 1回 | 0 | 15 | 15 |
| | 令和3年度障害者アーツ連絡会議 | 7月28日(水)、2022年1月17日(月) | 2回 | 0 | 26 | 26 |
| | オレンジカフェ研究会 | 2022年3月25日(金) | 1回 | 0 | 3 | 3 |
| とびラーとの学び合いの場 | 各プログラムのとびラーとの準備日および振り返り | 7月10日(土)、10月31日(日)、11月15日(月)、2022年1月9日(月) | 4回 | 79 | 0 | 79 |
| 視察 | のべ9団体 | | | 0 | 15 | 15 |
| 合計 | | | | 188 | 380 | 568 |

障害のある方のための特別鑑賞会(p.59) プログラム参加のべ人数 2,009人

| プログラム名 | 開催日 | 回数 | 参加者数 | | 参加者計 | |
|-----------------|-----------------------------------|---------------|------|--------|-------|-------|
| | | | とびラー | 一般参加者等 | | |
| 障害のある方のための特別鑑賞会 | イサム・ノグチ 発見の道 | 6月28日(月) | 1回 | 50 | 238 | 288 |
| | ゴッホ展—響きあう魂 ヘレーネとフィンセント | 10月11日(月) | 1回 | 46 | 748 | 794 |
| | ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展 | 2022年3月14日(月) | 1回 | 40 | 887 | 927 |
| 合計 | | | | 136 | 1,873 | 2,009 |

とびラーによる建築ツアー (p.59) プログラム参加のべ人数 309人

| プログラム名 | 開催日 | 回数 | 参加者数 | | | 参加者計 |
|-------------------|---|----|------|--------|---------|------|
| | | | とびラー | 開扉とびラー | 一般参加者等* | |
| 建築ツアー | 7月17日、9月18日、11月20日、2022年1月8日、2022年3月19日(いずれも土曜日(5月15日は新型コロナウイルス感染症予防のため中止)) | 5回 | 63 | 0 | 79 | 142 |
| トピカン・ヤカン・カイカン・ツアー | 11月12日、19日、26日、12月3日、10日 いずれも金曜日 | 5回 | 46 | 0 | 48 | 94 |
| トピカン・モーニング・ツアー | 4月14日(水)、8月4日(水)、10月13日(水)、12月7日(火) | 4回 | 42 | 0 | 31 | 73 |
| 合計 | | | 151 | 0 | 158 | 309 |

学校連携(p.60) プログラム参加のべ人数 2,394人／インターン受入人数2人

| プログラム名 | 開催日 | 回数 | 参加者数 | | 参加者計 | |
|----------------------------|--|--------------------------------|-------|-------|------|-------|
| | | | 児童・生徒 | 教員等 | | |
| 学校来館対応(奉仕活動受入) | 東京都立上野高等学校 | 10月31日(日)、11月4日(木)、5日(金)、6日(土) | 4回 | 4 | 0 | 4 |
| 観覧料免除申請(都内教育機関) | イサム・ノグチ 発見の道 | 4月24日(土)～8月29日(日) | 3回 | 20 | 3 | 23 |
| | ゴッホ展—響きあう魂 ヘレーネとフィンセント | 9月18日(土)～12月12日(日) | 46回 | 1,493 | 140 | 1,633 |
| | 上野アーティストプロジェクト2021「Everyday Life: わたしは生まれなおしている」 | 11月17日(水)～2022年1月6日(木) | 1回 | 10 | 2 | 12 |
| | ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展 | 2022年2月10日(木)～3月31日(木) | 10回 | 251 | 35 | 286 |
| 教員研修 | 中堅教諭等資質向上研修1受入(羽村市立松林小学校) | 7月18日(日)、23日(金)、24日(土)、25日(日) | 4回 | 0 | 4 | 4 |
| | 府中市立小中学校教育研究会園工美術部 | 12月15日(水) | 1回 | 0 | 14 | 14 |
| | 台東区園工研究会 | 2022年2月18日(金) | 1回 | 0 | 6 | 6 |
| | ティーチャーズ・デイ | 6月19日(土) | 1回 | 0 | 7 | 7 |
| 専門的人材の育成およびネットワーク | 埼玉大学大学院 | 6月30日(水) | 1回 | 6 | 0 | 6 |
| | 東京藝術大学 音楽学部 音楽環境創造学科 | 10月23日(土)、30日(土) | 3回 | 12 | 0 | 12 |
| | 東京都立大学 | 10月30日(土) | 1回 | 1 | 0 | 1 |
| | 東洋大学 | 11月7日(日) | 1回 | 1 | 0 | 1 |
| | 國學院大學 | 11月15日(月)、2022年2月28日(月) | 2回 | 134 | 0 | 134 |
| | 東京藝術大学 美術教育修士課程 | 12月7日(火) | 1回 | 1 | 0 | 1 |
| | 跡見女子学園大学 | 12月17日(金) | 1回 | 15 | 0 | 15 |
| 東京工芸大学 | 2022年1月19日(水) | 1回 | 142 | 0 | 142 | |
| 文化庁主催 第10回ミュージアムエデュケーション研修 | 9月14日(水)～17日(金) | 4日間 | 72 | 21 | 93 | |
| 合計 | | | | 2,162 | 232 | 2,394 |

展覧会関連プログラム(p.61) プログラム参加のべ人数 46人

| プログラム名 | 開催期間・開催日 | 回数 | 参加者数 | | | 参加者計 | |
|-------------------------------|----------|-----------------|------|--------|---------|------|----|
| | | | とびラー | 開扉とびラー | 一般参加者等* | | |
| Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる | ダンス・ウェル | 8月21日(土)、22日(日) | 2回 | 0 | 0 | 46 | 46 |
| 合計 | | | | 0 | 0 | 46 | 46 |

事業の発信・成果の発表(p.61) プログラム参加のべ人数 70人

| プログラム名 | 開催日 | 回数 | 参加者数 | | | 参加者計 | |
|----------------|--------|-----------|------|--------|---------|------|----|
| | | | とびラー | 開扉とびラー | 一般参加者等* | | |
| とびらプロジェクトレクチャー | 台湾輔仁大学 | 11月13日(土) | 1回 | 0 | 0 | 70 | 70 |
| 合計 | | | | 0 | 0 | 70 | 70 |

令和3年度 東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum
Annual Report 2021

発行日／令和4年11月

執筆・編集／東京都美術館

印刷／株式会社ルナテック

発行／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
〒110-0007

東京都台東区上野公園8-36

TEL 03-3823-6921 (代表)

FAX 03-3823-6920

© Tokyo Metropolitan Art Museum

